



令和7年11月1日号  
Sakata

# 市議会だより

第85号

『冬を迎える鳥海湖』高谷 勝巳氏 撮影

## 特集

各常任委員会政策提言決議

市長に政策提言書を手交

9月定例議会

令和6年度決算の認定



市ホームページ



## 特集

## 各常任委員会政策提言決議

## 総務常任委員会

## 公共施設等の適正化の推進

## 調査概要

本委員会では、政策提言テーマについて次の三つの観点から調査を行いました。

## ■既存施設の利用拡大

稼働率が低い施設について利用率を向上させるための仕掛けを検討。

## ■未利用施設の利活用

再利用だけでなく、売却・貸付を含めた利活用について調査。

## ■施設の解体（除却）

解体費用が年々上昇傾向のため、早急な対応策の検討。

## 調査結果（要約）

令和6年7月と10月の現地視察で、未利用施設と今後改修が必要な施設の現状が確認されました。一部の未利用施設は活用が難しいものの、民間事業者のアイデア次第で利活用の可能性があるため、広範な周知活動が必要です。

利活用策として、埼玉県深谷市の「マイナス入札制度」のような事例がありました。これは市の負担金で活用を促し、長期的な税収増を狙うものでした。また、酒田市でも「1円入札」といった実績があり、こうした好事例の導入を進めるべきだと考えます。

厳しい財政状況を踏まえ、すべての公共施設を維持することは困難ですが、単なる廃止ではなく、地域的な背景を考慮し、施設の複合化、集約化、多機能化を進める必要があります。

解体事業も、有利な交付税措置を積極的に活用し、統廃合を早急に進めるべきと考えます。



本市議会では、2年ごとに政策提言を行っています。このたびも各常任委員会で政策提言テーマを決め、行政視察、意見交換、当局との勉強会などを通じ、調査・研究を進めてきました。それらの結果をとりまとめ9月定例議会で市長に政策提言書を提出しました。



こちらもご覧ください

## 委員会開催状況及び活動状況

| 開催年月日                  | 概要                                          |
|------------------------|---------------------------------------------|
| 令和6年3月1日               | 政策提言テーマ「公共施設等の適正化の推進」を採択した。                 |
| 令和6年4月22日              | 総務部（財政課）と意見交換を行い、それを受けて議員間討議を行った。           |
| 令和6年7月5日<br>令和6年10月29日 | 本市の公共施設の視察を行った。                             |
| 令和6年11月14日             | 総務部（総務課及び財政課）と未利用地の売却及び貸付の考え方等について意見交換を行った。 |
| 令和7年1月22日              | 埼玉県深谷市へマイナス入札に関する質問を文書にて送付し、回答を受領した。        |
| 令和7年6月5日               | 委員会報告書及び政策提言書（素案）について議員間討議を行った。             |
| 令和7年8月21日              | 委員会報告書及び政策提言書（案）の確認を行った。                    |
| 令和7年9月9日               | 委員会報告書及び政策提言書の採決を行った。                       |

9月定例議会の9月18日に、総務常任委員会発議により、下記の政策提言決議案が提出され、全会一致で可決されました。

### 「公共施設等の適正化の推進に関する提言書」の提出に関する決議

本委員会では、「公共施設等の適正化の推進」について調査検討を進めてきた。

本市の公共施設の現状については、既存施設の老朽化、合併による類似施設の重複などの課題を抱えている。現在保有しているすべての公共施設を今後も維持する場合、その負担は市の財政へ大きな影響を与えることが考えられる。また、人口減少による税収減を鑑みると、公共施設等の適正化は喫緊の課題といえる。公共施設の適正化を早急に進めなければ、他の市民サービスの低下を避けることができないとともに、将来世代に大きな負担としてのしかかることになる。

既存の施設について稼働率が低い施設がみられるため、まずは利用者を増やすような仕掛けが必要である。未利用施設については、民間事業者による利活用を進めているが、再利用や売却・貸付が思うように進んでいない状況であり、既存の方法では処分できない状況にきていると思われる。施設の除却については、施設ごとの維持管理費用や老朽化度合いによって総合的に判断して進められているが、解体費用も増加傾向にあるため、除却までの迅速な判断が求められる。

以上のことを踏まえ、本市における公共施設等の適正化の推進の一助となるよう、下記の施策を提言するものである。

#### 記

#### 1 基本的な考え

- (1) 施設の機能や地域的な背景、稼働率、急激に変化する社会情勢などを十分見極めた上で、施設の複合化や集約化、多機能化を緊急的かつ積極的に推進すること
- (2) 施設の適正化を一元的に進められるような組織体制を検討すること
- (3) 今後の適正化を進める施設の全体像（時期、手法等）を早急に示し、市民への丁寧な説明を行うこと

#### 2 既存施設のあり方について

- (1) 利用者が増加するよう様々な分野と連携しながら施設用途の拡大を図ること
- (2) 利用拡大策を講じても稼働率が上がらない場合、施設の用途廃止を決定する仕組みを構築すること

#### 3 未利用施設の利活用について

- (1) 『1円入札』や『マイナス入札』などの好事例を取り入れながら積極的に売却を進めること
- (2) 民間事業者が利活用しやすくなるよう積極的な情報提供や広報を行うこと

#### 4 施設の解体（除却）について

- (1) 市の財政負担が軽減されるよう有利な財源を活用して解体を計画的に進めること

以上、決議する。

令和7年9月18日

酒田市議会

## 調査概要

本委員会では、意見交換、行政視察を行い、課題について調査研究を重ねてきました。

### 関係団体との意見交換会

園児減少、深刻な保育士不足、個別対応の困難さ、施設老朽化、幼保小・行政の連携不足などが共通課題として明確化。

### 行政視察

こども家庭庁、文部科学省、千葉県柏市、千葉県松戸市へ視察。  
保育の質向上、施設の多機能化、幼保小接続、ワンストップ支援、保育士確保策が重要であることを確認。



## 調査結果（要約）

酒田市は深刻な人口減少と超高齢化が急速に進行しており、社会基盤の維持が危ぶまれています。子育て・保育分野では、経済的負担の増大による保護者の不安が急増しており、また現場では保育士不足と個別支援を要する子どもの増加により、保育の質維持が困難になっています。さらに老朽化施設の維持費も経営を圧迫しています。

支援体制では、相談窓口の分散や児童遊戯施設の不足が課題となっており、幼保小連携の不足や行政の縦割りも問題視されています。したがって、幼児教育の位置づけの浸透、幼保小の横断的な連携強化、地域一体で幼児教育・保育の質を高め合う体制づくりが必要です。

上記の現状と課題を受け止め、必要な対策を講じることが不可欠であり、地域と行政が一体となってこの課題に取り組むことが強く求められます。



## 委員会開催状況及び活動状況

| 開催年月日                   | 概要                                |
|-------------------------|-----------------------------------|
| 令和6年3月1日                | 政策提言テーマ「少子化の中での幼児教育・保育のあり方」を採択した。 |
| 令和6年4月25日               | 正副委員長が健康福祉部長、保育こども園課長から意見を聴取した。   |
| 令和6年5月8日                | 議員間討議を行った。                        |
| 令和6年9月20日<br>令和6年11月14日 | 関係団体との意見交換を行い、その後議員間討議を行った。       |
| 令和6年12月26日              | 教育委員会、健康福祉部と意見交換を行った。             |
| 令和7年5月8日～<br>令和7年5月9日   | こども家庭庁、文部科学省、千葉県柏市・松戸市へ行政視察を行った。  |
| 令和7年5月28日               | 政策提言書（草案）について議会間討議を行った。           |
| 令和7年6月9日                | 委員会報告書及び政策提言書（素案）について議員間討議を行った。   |
| 令和7年8月4日                | 委員会報告書及び政策提言書（案）の確認を行った。          |
| 令和7年9月9日                | 委員会報告書及び政策提言書の採決を行った。             |

9月定例議会の9月18日に、民生常任委員会発議により、下記の政策提言決議案が提出され、全会一致で可決されました。

## 「少子化の中での幼児教育・保育のあり方に関する提言書」の提出に関する決議

本委員会は、「少子化の中での幼児教育・保育のあり方」を喫緊の課題と捉え、その実情を深く理解するため、精力的に視察研修、関係団体との意見交換、そして常任委員会所管の枠組みを超えた多角的な討議を重ねてきた。

全国的な少子化の波が押し寄せる中、本市の出生数の減少は憂慮すべき状況であり、既に保育所の定員割れという形での影響は顕在化している。このままでは、保護者が安心して子どもを産み育て、未来を託せる幼児教育・保育の環境維持、そしてその現場を支える保育人材の確保という、本市の根幹を揺るがす事態を招きかねない。

かかる危機的状況を打破し、子どもたちの健やかな成長と地域社会の持続可能性を確固たるものとするため、私たちは、先の意見交換会において肌で感じた現場の切実な声をもとに本市独自の視点と決意を示し、未来を切り拓くための施策を提言するものである。

### 記

#### 1 幼保小の連携強化

- (1) 幼保小の連携については、教育委員会が窓口となり、一貫した取り組みを推進すること
- (2) 幼児期は人格形成の基礎を培う重要な時期であることから、本市における幼児教育・保育の位置づけの浸透を図ること
- (3) 幼保小の円滑な接続と相互理解を推進するため、国が推奨する幼児教育アドバイザーや架け橋期のコーディネーターを配置して、その機能の中核となる「幼児教育センター」の設置に向けた具体的な調査と検討を県に要望するなど、地域一体で幼児教育・保育の質を高め合う体制を構築すること

#### 2 施設の経営安定化への支援

- (1) 持続可能な保育・教育サービスの提供を図るため、市内保育園・認定こども園の相互の協力・連携を進めること
- (2) 園舎の老朽化に対する相談支援を手厚くし、修繕費補助の充実を図ること
- (3) 将来的な園の統廃合にあたっては、円滑に進むよう支援するとともに、市有財産貸付契約の原状復旧の条件の見直しを進めること
- (4) 統廃合後の余剰施設は、多機能化による利活用を検討し、地域の新たな価値の創出を図ること
- (5) 国や県と連携を図りながら、既存の補助金のあり方を見直し、物価高騰対策を講じること

#### 3 インクルーシブな幼児教育・保育体制の強化

- (1) 軽度発達障がいを含む特別な支援を必要とする子どもが、他の子どもたちと共に豊かに育つ環境を整備するため、保育士等の配置基準の見直しを国に要望するとともに、本市独自に保育士や専門家（看護師等）の配置基準やそれに伴う補助制度を検討すること
- (2) 相談支援体制を強化し、遅延なく専門家へつなぐこと
- (3) 保育士・幼稚園教諭に対する専門的な研修の機会を充実させ、保育現場の相談対応力を向上させるとともに、多様なニーズを持つ子どもたちが共に育つ環境づくりを推進すること

#### 4 保育人材の確保と定着

- (1) 県と連携し、「保育士・保育所支援センター」の活用や潜在保育士の掘り起こし持続可能な保育体制を確保すること
- (2) 都市部への人材流出を防ぐため、処遇改善や多様な働き方を支援するとともに魅力ある職場環境づくりやPR方法を検討すること
- (3) 保育現場の働き方改革を推進するとともに、子育て世代の女性が働き続けられる環境を整備すること

#### 5 子育て支援体制の充実

- (1) こども家庭センター「ぎゅっと」をはじめとする子育て支援施設の機能やアクセスの見直し、散在する相談窓口のワンストップ化を図ること
- (2) 乳幼児健診の場所を船場町から移転させること
- (3) 休日や雨の日でも無料で遊べる大型児童遊戯施設等の整備を検討し、中高生の居場所を備えた子育て支援拠点施設の充実を図ること
- (4) 子育てにおける様々な課題を地域全体で分かち合い、誰もが「子育ては楽しい！」と心から感じられるような子育てを支える機運の醸成に努めること
- (5) 人事異動で業務が停滞しないような人材配置に留意すること

以上、決議する。

令和7年9月18日

酒田市議会

## 調査概要

本委員会では、関係部局や関連組織からヒアリングや意見交換などを行い課題について調査研究を重ねてきました。

## ■関係団体との意見交換

一般財団法人酒田DMOの理念と活動方針について詳細な説明を受け、意見交換を行いました。

## ■当局との意見交換

委員から、本市の観光戦略の課題と将来展望について意見が出され、市当局側と認識を共有しました。



## 調査結果（要約）

酒田市では、観光物産館が「いろは蔵パーク」に移転するなど変化がある中、観光客数は増加傾向にあります。しかし、現行の中長期観光戦略の満了が近づき、行政と民間組織の役割分担が不明確、地域プラットフォームが機能していない、計画の検証不足といった次の課題が明確になってきました。

観光戦略を進めるに当たっては、関係団体との協力が必要になるため、今まで以上に連携していく仕組みづくりが重要になります。

また、観光資源の活用促進のためには、市民の観光に対する意識の醸成が必要であり、市民が理解しやすいスローガンの設定やPRを行うほか、観光に結び付けられる素材を探し出し、市民との連携する方法を模索していくべきだと考えます。



## 委員会開催状況及び活動状況

| 開催年月日     | 概要                                         |
|-----------|--------------------------------------------|
| 令和6年3月1日  | 政策提言テーマ「酒田市の観光戦略」を採択した。                    |
| 令和6年4月5日  | 関係団体との意見交換に向け、課題などについて議員間討議を行った。           |
| 令和6年4月15日 | 関係団体との意見交換を行った。                            |
| 令和6年9月25日 | 関係団体との意見交換を踏まえ、酒田市中期観光戦略の在り方について議員間討議を行った。 |
| 令和6年10月7日 | 地域創生部（交流観光課）にヒアリングを行った。                    |
| 令和7年2月21日 | 現状の課題を共有し政策提言に向け、議員間討議を行った。                |
| 令和7年6月5日  | 委員会報告書及び政策提言書（素案）について議員間討議を行った。            |
| 令和7年6月10日 | 地域創生部（交流観光課）と政策提言についての意見交換と議員間討議を行った。      |
| 令和7年7月29日 | 委員会報告書及び政策提言書（案）の確認を行った。                   |
| 令和7年9月9日  | 委員会報告書及び政策提言書の採決を行った。                      |

9月定例議会の9月18日に、建設経済常任委員会発議により、下記の政策提言決議案が提出され、全会一致で可決されました。

## 「酒田市の観光戦略に関する提言書」の提出に関する決議

本委員会において、「酒田市の観光戦略」を政策提言の項目として、関係部局や関連組織からのヒアリングや意見交換を経ながら、議員間討議を行ってきた。

政策提言を作成するに当たり、平成28年4月から令和8年3月までの10年間を計画期間とする酒田市中長期観光戦略を参考にしながら、令和4年5月に設立された一般財団法人酒田DMOや市当局の観光に対するこれまでの活動を確認した。

本市の観光が盛んになるためには、これまで以上に関係団体の協力が不可欠との結論となった。本委員会では、多様化する観光客ニーズをとらえ、観光戦略を策定すること、観光資源の醸成や来訪された方の満足度を上げ、リピーターを増やすことを目標に、下記の施策を提言するものである。

### 記

- 1 「酒田市中長期観光戦略～新酒田物語～」について
  - (1) これまでの総括をすること
- 2 令和8年度からの新たな観光戦略の策定について
  - (1) 観光戦略を展開する施策（アクションプログラム）を明記すること
  - (2) 観光関係団体の役割を明記し、その上で連携し実効性のあるものにすること
  - (3) 計画の見直し時期を設定し、点検・検証・分析をおこたらないこと
  - (4) 観光資源の活用促進をすること

### 【附帯項目】

- |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ol style="list-style-type: none"> <li>1 関係団体との観光戦略           <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 市からの補助金等交付団体への指導               <ol style="list-style-type: none"> <li>①観光戦略を遂行するための指導</li> <li>②役割分担と連携の明確化</li> <li>③補助金等の適正使用を審査</li> </ol> </li> <li>(2) 一般財団法人酒田DMOとの連携               <ol style="list-style-type: none"> <li>①年度毎に事業効果の検証</li> <li>②日本人誘客の強化</li> <li>③動画を含めたネットコンテンツの更新と強化</li> <li>④会計の透明化を図るため補助金交付要綱の見直し</li> <li>⑤事業報告書の提出</li> </ol> </li> <li>(3) 一般社団法人酒田観光物産協会との連携               <ol style="list-style-type: none"> <li>①おみやげ品の開発強化及び販売促進</li> <li>②動画を含めたネットコンテンツの強化</li> </ol> </li> <li>(4) さまざまな団体と連携を密に活動する仕組みの構築</li> <li>(5) 祭りなどのイベントでの役割分担の明確化</li> </ol> </li> </ol> | <ol style="list-style-type: none"> <li>2 観光資源の活用促進をすること           <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 市民への観光事業の周知PR</li> <li>(2) 文化政策課との山居倉庫および周辺の観光を協議</li> <li>(3) ジオパークを観光資源へと更なる活用促進</li> <li>(4) 八幡・松山・平田地域の観光資源の活用促進</li> <li>(5) 「美酒美食のまち酒田」を観光資源としたPR強化</li> <li>(6) スマホ等の端末を活用した観光促進</li> <li>(7) クルーズ船寄港時の観光消費拡大</li> <li>(8) スポーツツーリズムの拡大支援</li> <li>(9) 農業体験、グリーンツーリズムの拡大支援</li> <li>(10) 観光二次交通の検討</li> <li>(11) 欧米豪を対象としたインバウンド誘客の推進</li> </ol> </li> </ol> |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

以上、決議する。  
令和7年9月18日

酒田 市 議 会

# 議会改革

## 議会改革推進特別委員会調査結果報告

酒田市議会基本条例に基づき設置された本委員会は、議会改革のさらなる推進と活性化を目的とし、「通年議会」「政策提言サイクル」「議会基本条例の検証」の3点について調査・検討を進めました。

### ■通年議会の導入と運用

緊急時にも迅速に議会を開く体制を構築

通年議会は、改選前の委員会で導入が決定されていましたが、本委員会で具体的な運用方法、関係条例の改正、会議名称、専決処分事項の指定、請願審査の取り扱いなどについて決定しました。導入にあたりパブリックコメントも実施しました。特に専決処分事項（地方自治法の規定により市長が議決の代わりに意志決定すること）の指定については慎重に議論し、重要議案が市長の専決となる事態を防ぎ、緊急時にも迅速に臨時議会を開くことができる体制を整えました。

### ■政策提言サイクルの確立

ガイドラインを策定

政策提言を継続的に繋げるため、「酒田市議会政策提言に関するガイドライン」を策定しました。このガイドラインにより、提言し

た施策の進捗状況を検証し、その結果を次の提言に反映させる仕組みを構築しました。市民や関係団体との「対話」を通じたテーマ設定と、議員間討議による政策提言を策定することで、対話・提言・検証の政策サイクルを確立しました。

### ■議会基本条例の検証

チェックシートで取り組み状況の確認

平成23年に施行された議会基本条例の理念と現状を照らし合わせるため、チェックシートを用いて取り組み状況を確認しました。政策提言の実施など評価できる点がある一方で、若年層の参画促進など引き続き取り組むべき課題も見つかりました。この結果を踏まえ、継続的な検証の場を設けていくことが望ましいと考えます。

### ■専門家の助言と取り組みの評価

第19回マニフェスト大賞の躍進賞に選出

青森大学教授である佐藤淳<sup>さとうあつし</sup>氏を議会改革推進アドバイザーとして委嘱し、専門的な立場から多くの助言をいただきました。これらの取り組みをまとめ、「第19回マニフェスト大賞」に応募した結果、議会改革部門の躍進賞に選出され、酒田市議会の改革への取り組みが高く評価されました。

※マニフェスト大賞 地方自治体の議会、首長などによる地域の民主主義向上に資する優れた取り組みを募集し表彰するもの

### ■今後の展望

改革への継続した取り組みを

議会改革は一過性のものではなく、持続的な努力が求められます。今後も市民との対話や議員間討議を重視し、市民福祉の向上と市勢の発展に寄与する議会であるために、改革への取り組みを継続していきたいと考えています。



「議会改革部門」躍進賞受賞式の様子

# 8月臨時議会

令和7年8月4日  
会議期間1日間

## 審議された議案等

### ●市長提出案件……………4件

令和7年度酒田市一般会計補正予算（第4号）をはじめ、右記議案などを審議しました。  
議案は、総務・建設経済常任委員会、予算特別委員会の審査を経て本会議で採決が行われた結果、可決されました。

## 常任委員会

8月4日に総務・建設経済常任委員会を開催し、議案3件を審議しました。

### 【総務】

議第72号請負契約の締結について（光ヶ丘野球場及び屋内練習場人工芝改修工事）を審査しました。

審査の結果、いずれも原案を妥当と認め、全会一致で可決すべきものと決定しました。

### 【建設経済】

議第73号請負契約の締結について（令和7年度農地・農業用施設災害復旧事業農地等災害復旧工事（その8））のほか、議第74号を審査しました。

審査の結果、いずれも原案を妥当と認め、全会一致で可決すべきものと決定しました。

## 予算特別委員会

8月4日に議第71号令和7年度酒田市一般会計補正予算（第4号）を審査しました。

今回の補正は、国の交付金を活用する漁業支援に係る補助金の計上及び武道館の雨漏り修繕に係る経費の計上によるものでした。

審査の結果、原案を妥当と認め、全会一致で可決すべきものと決定しました。

## 酒田市私学振興議員連盟研修会開催

7月25日に、こども家庭庁育成局保育政策課長栗原正明氏くりはらまさあきをお招きし、全議員（酒田市私学振興議員連盟）、市当局、市内の保育園・認定こども園の理事長・園長を対象とした研修会を開催しました。

「人口減少地域における保育課題と対応について」と題した講演では、行政と地域が一体となり課題に取り組むため、幼保小の連携、施設経営安定化への支援、インクルーシブな幼児教育・保育体制の強化、保育人材の確保と定着についてご説明いただきました。

## 「みちのくウエストライン」建設促進 沿線市町村議会連携会議総会を開催

8月18日に本市を会場として連携会議総会を開催しました。連携会議では、宮城県石巻市と本市を結ぶ地域高規格道路の早期実現に向けて、国などへの要望活動を積極的に展開するとともに、関係市議会の地域間相互の交流促進を図っており、沿線市町村議会（石巻市、大崎市、酒田市、新庄市、東松山市、涌谷町、美里町、庄内町、最上町、舟形町、戸沢村）の正副議長が会員となっています。

総会では、令和6年度事業報告のほか、令和7年度事業計画や高規格道路「新庄酒田道路」の早期整備を盛り込んだ国などへの要望書が了承されました。総会終了後の懇談会では、国土交通省酒田河川国道事務所より事業の進捗について説明を受け、意見交換を行いました。

みちのくウエストラインは、日本海側と太平洋側を地域高規格道路「新庄酒田道路」と「石巻新庄道路」で結ぶ路線であり、産業振興、観光振興につながるものです。



みちのくウエストライン総会

# 9月定例議会

令和7年8月29日～9月18日  
議会期間21日間

## 審議された議案等

- 市長提出案件 …… 26件
- 議員提出案件 …… 3件
- その他 …… 6件

令和7年度酒田市一般会計補正予算（第5号）をはじめ、右記議案などを審議しました。議案は、各常任委員会、予算特別委員会の審査を経て本会議で採決が行われた結果、可決、認定、同意されました。

# 代表質疑

代表質疑とは…  
会派等の代表が、市長提出の議案に関して、疑問を問うことができるもの。

市長提出議案に対する質疑では、9月2日に会派等の代表6人が行いました。質疑と答弁の要旨は次のとおりです。

― 第四中学区義務教育学校  
統合準備委員会の在り方は

志友会



たなか ひろし  
田中 廣 議員



▲動画はこちらから

令和10年度までに校名、校歌を決めるべき

問 統合準備委員会は、令和10年度の小学校統合と令和15年度の義務教育学校開校に向け、その都度準備委員会を設置することか。令和15年度の義務教育学校開校に向けた統合準備委員会を早々に立ち上げ、令和10年度までに義務教育学校の校名、校歌などを決めるべきではないかと考えるが所見を伺う。

義務教育学校開校を見据えて検討したい

答 教育長 義務教育学校の設置については、8月20日の臨時記者会見で十坂小学校および隣接地を設置場所として決定したことのほか、学校規模適正化を行い、教育環境の改善を図るため、十坂小学校と複式学級となっている各小学校の統合方針を発表した。令和7年度中に立ち上げる統合準備委員会では、6小学校区や第四中学校区の地域、保護者が委員となり、小学校統合と義務教育学校開校に向け、継続した話し合いを行っていく。令和10年度の小学校統合の段階で校名などを検討してほしいという声もあり、開校を見据え校名や校歌などを検討していきたい。

― 令和6年度酒田市一般会計決算  
酒田港整備による本市の発展に期待

令和会



いちむら こういち  
市村 浩一 議員



▲動画はこちらから

令和6年度の検討状況と今後の課題は

問 酒田港のインフラ整備や企業誘致による人口増加、交流人口の拡大などが期待されている。令和6年度は、再生可能エネルギー関連企業の集積や次世代エネルギーを活用した実証など国や県および地元企業と連携して検討を進めるとあったが、その検討状況と今後の課題を伺う。

基地港湾整備に伴い工業用地確保が課題

答 市長 酒田港は、洋上風力発電設備の設置などに利用される基地港湾に指定されており、令和6年度からの4か年で国による岸壁整備、また令和5年度からの4か年で、県による護岸整備などが進められている。本市としては、酒田港の基地港湾整備に伴い、酒田臨海工業団地周辺へのエネルギー関連企業の集積を積極的に進めていくことを総合計画の重点施策として位置づけている。集積を進める上での課題は、同工業団地における未分譲の工業用地が約10ヘクタールしかないことが挙げられるため、民間の未利用地などの活用を視野に入れながら進めていきたい。

―令和6年度酒田市一般会計決算  
財政展望 基金の状況と今後の見込みは

## 新公会



しんどう あきら  
進藤 晃 議員



▲動画はこちらから

## 令和13年頃から基金積立は可能か

**問** 財政調整基金は、前年度並みの39億円を確保したが、基金全体では前年度比で24億円減少した。特に地域づくり基金、さかた応援基金、公共施設等整備基金が減少している。今後も財源不足による基金からの繰り入れが続き、予算編成に支障をきたすものと考え、別途示された今後の財政展望では、基金は一時的に大幅に減少するが、公債費も大きく減るため、令和13年頃から積立が可能とされている。基金全体の推移と今後の見込みを伺う。

## 投資的経費を見込んだ場合は極めて厳しい

**答 市長** 将来想定される様々な投資的経費を見込んで試算した場合は、極めて厳しい状況となる。基金の多くは減少が見込まれ、枯渇すれば基金を充当している事業の廃止などの対応に迫られる。将来の推移を正確に見込むことは難しいが、常に基金残高の状況を見直し、財政運営に取り組んでいく必要がある。令和6年度決算を踏まえ、今後の投資的経費を見込んだ財政展望を改めて示し予算編成をしていきたい。

―令和6年度酒田市一般会計決算  
市民の声を聞き市政を前に進めたことは

## 日共産党 市議団



さいとう ひろし  
斎藤 周 議員



▲動画はこちらから

## 市民の声を反映した施策とプロセスは

**問** 令和6年度は、矢口市長が就任して初めての予算編成であったが、前市長の下で休止となった各総合支所地域の事業や子どもまつりへの負担金の復活など様々な分野で市民の声を聞き、確認しながらの予算編成であったと考えている。決算に当たり、市民の声を聞き施策に反映されたものはどの程度あるのかプロセスも含め、取り組みの総括を伺う。

## 犬と散歩できる公園を設定

**答 市長** 例として、公園で犬の同伴を認めてほしいという声には、他利用者との棲み分けが可能な公園で実証実験を行い、地域住民との意見交換などを踏まえ、その公園の一部エリアを年間開放する方針を決定した。ほかにも細かな意見が多数寄せられており参考になっている。課題は、既存ツールだけでは市民の声を十分に把握しきれない感覚があり、新しい仕組みとして、オンラインで市民の声を集める市民参加型合意形成プラットフォーム「さかボス」の実証実験を始めており、広聴活動を展開していきたい。

―令和6年度酒田市一般会計決算  
ふるさと納税返礼品の現状は

## 市政研究会



▲動画はこちらから

## 返礼品の確保と新たな返礼品の開発状況は

**問** 令和6年6月定例議会のふるさと納税推進事業に関する一般質問では、主力返礼品である米の在庫が厳しく、ポータルサイトでの募集を終了し、確保策を関係機関と相談していくこと、天候に左右されない返礼品の主力化などが急務との答弁があった。主力返礼品である米の確保の対応状況、米に代わる返礼品の開発状況など現状と課題、取り組みを伺う。

## 市場を注視した見直しと新規広告を活用

**答 市長** 米の確保に向けては、関係機関と協議しており、市場の動きを注視する必要がある。本市の返礼品は、米などの農産物に頼った構成であり、天候などの要因により提供数量が不安定化する課題がある。返礼品の充実や開発が急務ではあるが、国の制度改正や激しい競争により、一朝一夕にはいかない状況である。現在、実績のあるコンサルタントからの指導を得ながら、ポータルサイト返礼品ページの見直しや新たな広告の活用などを行っており、ふるさと納税寄附金の増額につなげたい。

―令和6年度一般会計決算  
市債発行額抑制の取り組みは

### 市民の会



たけだ けいこ  
武田 恵子 議員



▲動画はこちらから

### 市債残高を類似団体平均並みに

〔問〕 令和6年度は、7月25日の大雨災害があり、財政運営は厳しいものがあつたと拝察する。その状況でも、できるだけ市債を発行しないよう努めてきたと考えている。本市の市債残高は、市民1人当たり48万1千円で、類似団体平均より18万円多い。これは類似団体平均の1.6倍に当たり多すぎる。市債を市民の借金と考えると、少ないほうが健全ではないか。市債残高が類似団体平均に並ぶ時期は来るのか見通しを伺う。

### 指標の一つとして削減に取り組む

〔答〕 市長 令和5年度からプロジェクト30-30を掲げ、市債発行額を5年間で150億円、単年度で30億円とすることを目標とし、取り組み前の繰越分などを除くと、令和5年度債は約27億円、令和6年度債約22億円と単年度で30億円を下回る。また市民1人当たりの市債残高も令和4年度約54万円、令和5年度約51万円、令和6年度約48万円と削減できている。類似団体平均と並ぶ時期の予測は難しいが、指標の一つとして今後も削減に取り組みたい。

### 常任委員会

9月9日に総務・建設経済常任委員会を開催し、議案5件を審議しました。

#### 〔総務〕

議第81号酒田市体育施設設置管理条例の一部改正についてのほか、議第82号から議第83号の議案3件を審査しました。

審査の結果、いずれも原案を妥当と認め、全会一致で可決すべきものと決定しました。

#### 〔建設経済〕

議第84号令和6年度酒田市水道事業会計末処分利益剰余金の処分についてのほか、議第85号の議案2件を審査しました。

審査の結果、いずれも原案を妥当と認め、全会一致で可決すべきものと決定しました。

### 予算特別委員会

9月10日に議第75号令和7年度酒田市一般会計補正予算（第5号）のほか、議第76号から議第80号の議案6件を審査しました。また、9月18日に追加提案された議第87号令和7年度酒田市一般会計補正予算（第6号）を審査しました。

審査の結果、いずれも原案を妥当と認め、全会一致で可決すべきものと決定しました。

## 討論

9月12日に

1名が討論を行いました。

討論の要旨は次のとおりです。

討論とは…  
採決の前に、議員が議題に対して賛成または反対の意見を述べ、意見が違ふ議員の賛同を求めるもの。

認第1号

令和6年度酒田市一般会計歳入歳出決算の認定について

賛成討論

新政会 遠田 敏子 議員

ふるさと納税寄附金額は減少したものの、企業版ふるさと納税の増収、公共施設のネーミングライツ、未利用財産の売却など多様な方法で自主財源の確保に努めた。市税全体の収納率は97・75%と高い水準を維持し、税外収入の未収額も大幅に減少した。財政力指数は前年度から上昇し、実質公債費比率は改善された。これらの健全な財政運営の結果、17億4千783万6千円の黒字決算となった。以上のことから、認第1号は適切と評価し賛成する。

## 決算特別委員会

9月3日から8日に認第1号令和6年度酒田市一般会計歳入歳出決算の認定についてのほか、認第2号から認第9号の議案9件を審査しました。

審査の結果、認第4号については賛否両論があり、起立採決の結果、賛成多数で認定すべきもの、そのほかの議案は原案を妥当と認め、全会一致で認定すべきものと決定しました。

### 決算特別委員会での主な質疑

#### 令和6年度一般会計

##### 【総務部】防災対策強化事業

問 女性防災リーダー育成講座の参加者は、継続して受講しているのか。

答 基礎と応用を2年間で学び、次の段階に進む方法で実施しており、継続できている。

●他の質問項目／シティプロモーション推進事業、生涯活躍のまち構想推進事業、酒田移住交流推進事業、水防活動事業など

##### 【企画部】デジタル変革事業

問 デジタル技術を活用し地域課題を解決す

るとしたアイデアの試作品はできたのか。

答 未完成だが、ワークショップを通じ集約した意見をもとに引き続き取り組んでいく。

●他の質問項目／東北公益文科大学学生定住促進事業、乗合バス運行事業、デマンドタクシー運行事業、史跡旧鎧屋修復事業など

##### 【教育委員会】教育相談事業

問 スクールソーシャルワーカー3人で671案件に対応とあるが、実際に回れているか。

答 役割分担して取り組んでいるが、件数が増加する場合は、増員も想定している。

●他の質問項目／教育活動充実事業、要保護及び準保護児童援助事業、ミライニ管理運営事業、スポーツ・文化活動支援事業など

##### 【市民部】安全・安心のまち酒田推進事業

問 運転経歴証明書による、るるるんバス、デマンドタクシー料金割引の受け方は。

答 利用する際に、運転経歴証明書を提示すれば、一回につき100円割引となる。

●他の質問項目／空き家等総合対策事業、結婚推進支援事業、不法投棄防止対策推進事業、廃棄物対策事業など

##### 【健康福祉部】こども家庭センター運営事業

問 ヤングケアラー支援件数が0件だが自身からも助けを求められるようにしてはどうか。

答 自身が該当しないか児童生徒にアンケート調査を実施して今後の支援につなげたい。

●他の質問項目／地域福祉推進事業、後期高齢者健診事業、こころの健康づくり推進事業、保育こども園総務管理事業など

##### 【地域創生部】地域経済活性化支援事業

問 キャッシュレス決済キャンペーンを定番化し、継続して実施できないか。

答 国県からの交付金など財源が整った上で、その時の経済社会情勢を踏まえ判断したい。

●他の質問項目／人材活躍推進事業、酒田市東京拠点運営事業、重要港湾酒田港活性化推進事業、観光戦略推進事業など

##### 【建設部】市営住宅ストック改善事業

問 民間と提携しながらリノベーションするなど市営住宅の在り方を検討できないか。

答 利活用という点で事例も出ているので検討していきたい。

●他の質問項目／橋りょう延命化事業、公園施設再整備事業、新築住宅再生可能エネルギー設備推進事業、住宅総合支援事業など

##### 【農林水産部】いかのまち酒田推進事業

問 いかのまち酒田戦略会議負担金の使途を改めて伺う。

答 県外スーパーや回転すし店、市内飲食店と連携し消費拡大の取り組みを行っている。

●他の質問項目／多面的機能支払事業、野生鳥獣農作物被害対策事業、地籍調査事業、森林病虫害等対策事業、都市農村交流事業など

## 総括的質疑

市民の市政評価は／大雨災害で中止した18事業の総額は／プロジェクト30・30終了後も地方債発行を抑制するのか

## 令和6年度特別会計等

### 【国民健康保険特別会計】

被保険者資格証明書交付時の留意点は

### 【後期高齢者医療事業特別会計】

後期高齢者保険料は増額されたのか

### 【介護保険特別会計】

介護給付費準備基金の積立金目標額は

## 決算特別委員会討論

認第4号

### 令和6年度酒田市後期高齢者医療事業特別会計歳入歳出決算の認定について

#### 反対討論

共産党市議員 市原 栄子 議員

令和6年度は後期高齢者医療保険料の改定年度であり、保険料が引き上げられた。運営主体は県広域連合であるが、保険料引き上げにより、市民の暮らしがさらに厳しくなることは避けなければならぬと考え、反対する。

## 人事案件に同意

9月12日に提案された酒田市教育委員会教育委員の任命について、議会は全会一致で同意しました。

任期は令和7年11月29日から令和11年11月28日までです。



【教育委員会委員】

神田 直弥 氏

## 議員の辞職

齋藤美昭議員から一身上の都合により議員を辞職したい旨の辞職願が提出され、令和7年9月16日に議会はこれを許可しました。

なお、辞職に伴う補欠選挙は行いません。

※公職選挙法の規定により、議員の欠員の数が定数の6分の1を超えた場合や市長選挙が行われる場合に補欠選挙が実施されます。

市議会議員は、二元代表制の一翼を担う立場にあります。その強い自覚のもと市民の負託に応えられる言動を取るよう議員全員が改めて確認いたします。

## 議会活動日誌 *Diary*

|    |     |                                                                  |
|----|-----|------------------------------------------------------------------|
| 7月 | 9日  | 議会報編集委員会                                                         |
|    | 17日 | 議会報編集委員会                                                         |
|    | 25日 | 酒田市私学振興議員連盟研修会                                                   |
|    | 29日 | 総務・建設経済常任委員協議会<br>総務・建設経済常任委員勉強会<br>総務常任委員会意見交換会                 |
|    | 30日 | 議会運営委員会                                                          |
| 8月 | 4日  | 8月臨時議会<br>本会議<br>総務・建設経済常任委員会<br>予算特別委員会<br>議会運営委員会<br>民生常任委員勉強会 |

|    |     |                                                    |
|----|-----|----------------------------------------------------|
| 8月 | 21日 | 総務常任委員勉強会<br>各常任委員協議会                              |
|    | 25日 | 議会運営委員会                                            |
|    | 29日 | 9月定例議会(～9/18)<br>本会議<br>全議員勉強会<br>全員協議会<br>議会運営委員会 |
|    | 2日  | 本会議<br>議会改革推進特別委員会<br>建設経済常任委員勉強会                  |
|    | 3日  | 決算特別委員会(～8日)                                       |
| 9月 | 9日  | 各常任委員会                                             |

|    |     |                                             |
|----|-----|---------------------------------------------|
| 9月 | 10日 | 予算特別委員会<br>議会運営委員会                          |
|    | 12日 | 本会議<br>総務・建設経済常任委員協議会<br>全議員研修会<br>議会報編集委員会 |
|    | 16日 | 本会議<br>議会運営委員会                              |
|    | 17日 | 本会議                                         |
|    | 18日 | 本会議<br>予算特別委員会<br>議会運営委員会                   |

## 令和7年定例会 第5回8月臨時議会 議決結果一覧表

| 議案番号  | 件 名                                            | 議決結果 |
|-------|------------------------------------------------|------|
| 議第71号 | 令和7年度酒田市一般会計補正予算（第4号）                          | 可 決  |
| 議第72号 | 請負契約の締結について（光ヶ丘野球場及び屋内練習場人工芝改修工事）              | 可 決  |
| 議第73号 | 請負契約の締結について（令和7年度農地・農業用施設災害復旧事業農地等災害復旧工事（その8）） | 可 決  |
| 議第74号 | 請負契約の変更について（令和7年度農地・農業用施設災害復旧事業農地等災害復旧工事（その1）） | 可 決  |

## 令和7年定例会 第6回9月定例議会 議決結果一覧表

| 議案番号  | 件 名                                            | 議決結果 |
|-------|------------------------------------------------|------|
| 報第11号 | 令和6年度酒田市一般会計継続費精算報告について                        | 報 告  |
| 報第12号 | 令和6年度酒田市財政健全化判断比率及び資金不足比率の報告について               | 報 告  |
| 報第13号 | 地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構の令和6年度における業務の実績に関する評価結果について | 報 告  |
| 報第14号 | 専決事項の報告について（損害賠償の額の決定）                         | 報 告  |
| 認第1号  | 令和6年度酒田市一般会計歳入歳出決算の認定について                      | 認 定  |
| 認第2号  | 令和6年度酒田市定期航路事業特別会計歳入歳出決算の認定について                | 認 定  |
| 認第3号  | 令和6年度酒田市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について                | 認 定  |
| 認第4号  | 令和6年度酒田市後期高齢者医療事業特別会計歳入歳出決算の認定について             | 認 定  |
| 認第5号  | 令和6年度酒田市介護保険特別会計歳入歳出決算の認定について                  | 認 定  |
| 認第6号  | 令和6年度酒田市風力発電事業特別会計歳入歳出決算の認定について                | 認 定  |
| 認第7号  | 令和6年度酒田市駐車場事業特別会計歳入歳出決算の認定について                 | 認 定  |
| 認第8号  | 令和6年度酒田市水道事業会計決算の認定について                        | 認 定  |
| 認第9号  | 令和6年度酒田市下水道事業会計決算の認定について                       | 認 定  |
| 議第75号 | 令和7年度酒田市一般会計補正予算（第5号）                          | 可 決  |
| 議第76号 | 令和7年度酒田市国民健康保険特別会計補正予算（第1号）                    | 可 決  |
| 議第77号 | 令和7年度酒田市後期高齢者医療事業特別会計補正予算（第1号）                 | 可 決  |
| 議第78号 | 令和7年度酒田市介護保険特別会計補正予算（第1号）                      | 可 決  |
| 議第79号 | 令和7年度酒田市風力発電事業特別会計補正予算（第1号）                    | 可 決  |
| 議第80号 | 令和7年度酒田市駐車場事業特別会計補正予算（第1号）                     | 可 決  |
| 議第81号 | 酒田市体育施設設置管理条例の一部改正について                         | 可 決  |
| 議第82号 | 物品の取得について（乗合バス用中型バス）                           | 可 決  |
| 議第83号 | 請負契約の変更について（八幡体育館改築工事（建築工事））                   | 可 決  |
| 議第84号 | 令和6年度酒田市水道事業会計未処分利益剰余金の処分について                  | 可 決  |
| 議第85号 | 令和6年度酒田市下水道事業会計未処分利益剰余金の処分について                 | 可 決  |
| 議第86号 | 酒田市教育委員会委員の任命について                              | 同 意  |
| 議第87号 | 令和7年度酒田市一般会計補正予算（6号）                           | 可 決  |
| 議会第2号 | 「公共施設等の適正化の推進に関する提言書」の提出に関する決議について             | 可 決  |
| 議会第3号 | 「少子化の中での幼児教育・保育のあり方に関する提言書」の提出に関する決議について       | 可 決  |
| 議会第4号 | 「酒田市の観光戦略に関する提言書」の提出に関する決議について                 | 可 決  |

# 一般質問

一般質問とは…  
市政全般に関する  
状況や方針を質問し、  
報告や説明を求めたり、  
疑問を明らかにするもの。

9月16日、17日、18日に  
計17人が質問を行いました。  
質問と答弁の要旨は次のとおりです。



投票所の環境整備として  
投票のしやすさ・公平性を

えんた としこ  
遠田 敏子 議員

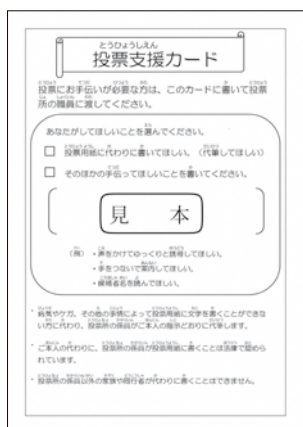


## 投票支援ツールの導入を

**問** 市民が安心して投票できる環境と、投票機会を確保することは自治体の重要な責務である。投票に介助が必要な方への投票支援カード、コミュニケーションボードは有権者に対し公平性が担保されるツールである。導入すべきであると考えているが所見を伺う。

## 評価や有用性を検証し導入を進めたい

**答** 選挙管理委員会委員長 選挙を支援するツールについては、全国的にも導入自治体が増加している。本市では導入していないが、投票環境整備の一環として、より公平性が担保されるためにも、先進自治体での評価や有用性を検証しながら、導入に向けた検討を進めていきたい。



お手伝いが必要な場合に  
書いてください

## 他の質問

高齢者RSウイルス感染症  
の予防啓発、ナトリウム比検査  
導入で予防医療の充実を



▲動画はこちらから

シャドーワーク  
どう解決する？

おおかべ ようへい  
大壁 洋平 議員



## 本市の認識と今後の対応を問う

**問** 介護の現場では、ケアマネジャーが本来業務に加え、掃除や買い物、通院付き添いなどシャドーワークを担う状況が常態化している。全国調査でも97%以上が経験しており、負担やリスクが課題である。この実態をどう認識し、今後どのように軽減・解決へ取り組むのかを当局の所見を伺う。

## 関係機関と協議を進めていく

**答** 健康福祉部長 本来の業務の範囲を超えた対応が要介護者やその家族と良好な関係を築く場合もあるが、課題として認識している。軽減策などは、現在、国で環境整備についての対応が検討されている段階で、市としても国の方針を参考にしながら関係機関と協議を進めていきたい。



対応せざるを得ない状況も

## 他の質問

今後の生成AI活用について



▲動画はこちらから

## 市街地の内水氾濫への対応は

いちばらえいこ  
市原 栄子 議員



## 浸水センサー観測データに基づく分析を

**問** 道路冠水について浸水センサーからの情報をさかたコンポで通知するサービスが開始されたが、それ以外での情報提供をどのように考えるか。また、浸水センサーの稼働により、道路冠水の一定の分析と共に、側溝の深さや傾斜角度、道路舗装など工夫をすることによって浸水水位を抑える事が出来ると考えるが見を伺う。

## データを活用していきたい

**答 建設部長** さかたコンポ以外の配信は費用の観点から現時点で検討していない。観測データの分析により、10分間雨量がおおむね10ミリを超えると地盤の低い土地から冠水が始まる傾向があることが分かった。今後は、このデータに基づき、各地区のリスク評価やハード整備の優先順位付けに活用したい。また、側溝や道路の勾配などについてもデータを検証しながら整備を検討し、迅速な交通規制の判断目安としてもセンサー情報を活用していく。

## 山形新幹線庄内延伸実現へ

さとうしんじ  
佐藤 伸二 議員



## 知事の発言に対して市の見解は

**問** 県議会の6月予算特別委員会で県知事が「山形新幹線の庄内延伸は大いにありうる、地元から声を上げてもらおうと県も動きやすい」との考えを示したと報道された。6月に発生した山形新幹線の大規模運休により、1か月余りで3万5千人の宿泊客減少と4億円の経済効果が新幹線にはある事が明らかになった。庄内までの高速鉄道網が整備されていけば経済に大きな弾みになると考えるが、本市の見解を伺う。

## 心強いものと受け止め要望をしていく

**答 市長** 知事の発言を心強いものと受け止め、地域が一丸となり、県やJR東日本に対して要望活動を強めていく必要があると考えている。今後は、庄内地域や陸羽西線沿線の自治体と庄内延伸の意義や鉄道機能強化の存り方について議論を深め、本市がリーダーシップを取り、地域一丸となって早期に県へ要望をしていきたい。

## 農福連携事業は本市にとって重要課題だ

いとうきんや  
伊藤 欣哉 議員



## どのように強化を図ってきたか

**問** 農福連携事業は、障がい者などの自立支援として取り組み拡大が求められており、一方で農業分野では労働力確保が重要な課題となっている。これを踏まえ、本議会では令和5年度政策提言の1つとして農福連携事業の取り組み強化を求めてきた経過がある。本市では農福連携事業強化のため、どのように取り組んできたか伺う。

## プロジェクトチーム庄内地域部会に参画

**答 農林水産部長** 本市では、農福連携の強化に向け、山形県農福連携プロジェクトチーム庄内地域部会に参画し、農業経営体と障がい福祉事業所のマッチングを支援してきた。庄内2市2町の農業経営体から農作業を受託し、延べ391人から従事してもらっている。



農福連携の取り組み事例(柿の箱詰め)

## 他の質問

福祉総合相談窓口と重層的支援体制整備事業の考え方は



▲動画はこちらから

## 他の質問

表題以外の質問はありません



▲動画はこちらから

## 他の質問

イノシシの被害



▲動画はこちらから

## 公共施設や公園・市道路線の命名権は慎重に

まつもとくにひろ  
松本 国博 議員

## 近隣住民・法人の理解が必要では？

問 公共施設等への命名権（ネーミングライツ）導入について、これまで親しんできた箇所を残しつつ、分かりやすい名称にすべきと考える。命名権で名称を募集している近隣公園は地域の地権者による区画整理事業の実績によるものであり、すでに愛称が付いている市道での命名権設定でも市民や路線上の法人・事業者の理解が大切だと考える。今後、命名権の契約成立後に、市民の理解が得られなかった場合の撤回要項などが必要ではないか。

## 選定委員会で慎重に審査

答 総務部長 命名権契約成立後の市民の理解が得られない場合の撤回について、現行制度では修正や撤回はできないと認識している。こうした場合、市民の理解を得よう努めることになるが、何よりも契約前に選定委員会で愛称を慎重に審査し、市民の理解を得ることが重要であると考えている。

合併20年の節目  
各総合支所の今後の役割はごとうひろく  
後藤 啓 議員

## 各総合支所の機能集約、職員配置計画を

問 合併20年を迎え、イベントでも20周年冠を付けて実施している。支所地域の少子高齢化、人口減少が顕著である。将来的な支所機能の集約、職員配置の計画はどのように考えるのか。昨年7月25日の大雨災害を踏まえた防災機能、近年のクマ・イノシシの目撃件数の増加や人的被害に対応するための鳥獣被害対策機能を支所に設置することについて所見を伺う。

## 総合的に対応する課を優先で考えたい

答 危機管理監 各総合支所に担当職員を1人ずつ配置しているが、それだけでは対応が難しい部分がある。これだけ件数が増えてくると、いろいろ対応が人手に頼らざるを得なくなる。現時点では各総合支所に残すというよりも総合的に有害鳥獣対策の部分を担っていくような担当課を優先して考えていきたい。

## 投票は憲法で保障された権利

さとうひろし  
佐藤 弘 議員

## 障がい者の投票権の保障は

問 投票所へ行きたくても自力で行けない障がい者にとっても、投票は憲法で保障された権利である。どんなに重い障がいがあっても、その権利は奪われるものではない。しかしながら投票をしたくても、投票所に行けない方がいるのも事実である。投票の意思があっても、寝たきりや車いす使用の方など、自力で投票所に行けない方の投票の権利は、どのように保障されているのか伺う。

## 対応可能な部分から取り組んでいきたい

答 選挙管理委員会委員長 本市では、移動支援として、巡回投票や支援バスなどの具体的な対応は現在行われていない。投票の権利は尊重されるべきであり、高齢化の進展も踏まえ、移動支援も含め様々な支援策の導入が必要になるものと認識をしているが、全ての方のニーズに対応することは難しい。先進例なども参考にしながら研究を進め、現実的に対応可能な部分から順次取り組んでいきたいと考えている。

## 他の質問

広告収入を得る事業展開、  
施設内の広告収入・デジタル  
技術を活用した稼ぐ組織

▲動画はこちらから

## 他の質問

災害復旧の進捗状況、  
鳥獣被害対策

▲動画はこちらから

## 他の質問

心のバリアフリーノートの  
活用

▲動画はこちらから

本市での屋内スポーツ大会  
開催・練習場所の状況は

とがしきる  
富樫 寛 議員



## 利用希望に対する施設不足の実態は

**問** 本市では屋内競技を行う団体や学生たちの活動が盛んであり、地域のスポーツ文化の根幹をになっている。一方で大会規模のイベントや日々の練習できる体育館が限られている。そのため多くのスポーツ関係者からは、隣接する市町の施設を借りざるを得ない状況が続いていると聞いている。近隣市町の施設を使用せざるを得ない現状について本市の受け止めと所見を伺う。

## 希望日に大会ができない実態は認識

**答 教育次長** 主要体育館の土日祝日の稼働率が非常に高いため、競技人口の多い種目で希望日に大会ができない実態は認識している。近隣施設の使用は、既存施設の改修工事による一時利用停止を除いては、基本的には市内で大会が開催できていると認識している。新たな多目的体育施設の整備は財政的に困難なため、今後は既存施設の集約化と計画的な老朽化対策を進めていきたい。

本市のクマ・イノシシなどの  
駆除と対応策は

たなか ひとし  
田中 斉 議員



## 本市のアーバンベア対策は

**問** クマがもう人間を怖くなくなってきていると言われているが、本市でも季節を問わず市街地・農地へのクマ出没が増え、義務教育学校予定地周辺でも頻繁に出没して人身事故も起きている。農作物の被害だけでなく、通学路や市民の安全対策のため、春先のクマの一斉駆除の態勢強化や本市独自の報奨金制度の創設で激減したハンターの育成確保を急ぐべきと考えるが所見を伺う。

## 地域協議会の取り組みとして検討

**答 副市長** クマ出没時は学校から保護者へメールで情報共有し、送迎など依頼している。一部学校では熊鈴の配布や撃退スプレー購入を検討している。ハンターの確保・育成については、免許取得費用の補助などで担い手を支援し、報奨金制度は地域協議会の取り組みとして検討している。

高齢者の孤独・孤立対策  
が心配だ

さいとう ひろし  
斎藤 周 議員



## 孤独死を防止する取り組みは

**問** 東京都立川市では、孤独死を予防する取り組みとして見守りホットラインを開設している。いつもと違う、どうしたらいいのか心配な近所の方に、気づいたら連絡をという取り組みである。郵便受に新聞や郵便物が溜まってないか、同じ洗濯物が数日間干したままになっていないかなどである。そこで本市での孤独・孤立対策として孤独死を予防する取り組みを伺う。

## 民間事業者と連携する体制を整備

**答 市長** 孤独死予防として見守りネットワーク支援事業を実施している。これは、福祉隣組が独り暮らしの高齢者宅の電灯や雨戸の開閉などをさりげなく見守り、必要に応じて相談機関へつなぐものである。在宅安心相談コール事業として、緊急通報システムによる24時間健康相談や定期的な安否確認も実施し、民間事業者と連携して、異変の連絡があれば市職員が安否確認を行う体制を整備している。

## 他の質問

酒田市障害者福祉センター  
の諸課題



▲動画はこちらから

## 他の質問

避難所などの熱中症対策は  
12月補正予算で着実な前倒  
し対応を



▲動画はこちらから

## 他の質問

子どもの権利条約の推進は  
どうなっている、職員確保の  
取り組みは



▲動画はこちらから

地元でいきいきと働くことができるまち

安藤 浩夫 議員  
あんどう ひろお



## 日本一女性が働きやすいまちの実現は

**問** 日本一女性が働きやすいまちの宣言を行い、8年が経過した。今年8月に本市がサステナブル・スキャンパニアワードでパブリックサービス賞を自治体として初めて受賞したことは、行政、企業、働く人の努力と賛同するリーダーの会の下支えによる賜ものと考えている。本市としてこの受賞をどのように評価し、今後の取り組みに生かすのか。また、えるぼし、くるみん、ユースエール認定企業の相乗効果を若者・女性の人口流出抑制にどのようにつなげるのか伺う。

## 認定企業増加を支援していきたい

**答 市長** パブリックサービス賞の受賞は働く環境の整備と意識改革の努力が認められたものと評価し、市内外へ働きやすさを発信し、移住・定住につなげていきたい。えるぼし、くるみん、ユースエールの認定は、企業には人材確保・定着、働く人には働きやすさ、本市には人口流出抑制という効果があるため、認定企業増加を支援し、さらに若者・女性に選ばれるまちを目指していきたい。

横断歩道・信号機の設置と撤去の基準はあるのか

武田 恵子 議員  
たけだ けいこ



## 通学路の危険な交差点に信号機設置を

**問** 下校中の女子中学生が、横断歩道を横断中、交通事故に遭われた。事故の報道直後、複数の中学生保護者から「信号をつけるようお願いしてください。」という悲鳴のような連絡を頂戴した。押ボタン式の信号機があったら、事故は防げたかもしれない。信号機の設置基準を伺う。

## 設置の最終決定は警察と公安委員会

**答 市民部長** 設置基準は、交差点の構造、交通量、歩行者の実態、周辺道路網のバランスなど多要因を総合的に勘案し判断している。信号機および横断歩道設置基準の最終決定は警察と公安委員会が行っているが、地域の意向聴取やデータ提供などで連携している。



横断歩道とその手前30mは追い越し・追い抜き禁止

本市の新観光戦略に入れ込むべき課題は

後藤 泉 議員  
ごとう いずみ



## 活かされていない超一級の観光資源

**問** 東北には2か所しかない国府の城輪柵跡と多くの埋蔵文化財や付属史跡がある八森遺跡にストーリー性を持たせること。さらに今後インバウンド観光が東北に目が向いてきたとき必ずや奥の細道が注目されると思われることから、この二つの観光資源を活かすべきと考えるが所見を伺う。

## 引き続き活用方法を検討する

**答 市長** まず城輪柵跡の報告書を来年度に刊行し、その後八森遺跡の新たな研究を進め、文化庁と意見交換を考えている。奥の細道については、芭蕉の足跡が市内に残されており、国内外向けの観光資源として活用方法を引き続き検討していく。



国府 城輪柵跡

## 他の質問

表題以外の質問はありません



▲動画はこちらから

## 他の質問

空き家対策の進捗状況、重層的支援体制の構築、日本一女性が働きやすいまち宣言



▲動画はこちらから

## 他の質問

滝の小屋口駐車場問題、登山道の整備、家族旅行村の施設維持、青少年交流など



▲動画はこちらから

## 新規開業医・歯科医に立地 企業並みの優遇対策を

後藤 仁 議員  
ごとう ひとみ



### 早急な支援制度の構築を図るべき

**問** 地方独立行政法人日本海総合病院 前理事長の講演「地域医療の今後 持続性と課題について」を聞いた。その中で、令和5年5月の酒田地区医師会アンケート調査があり、開業医は、令和5年5月現在81件であるが、フーストシナリオによると、令和10年には66件、令和15年には52件に減るとのこと。新規開業医・歯科医の確保は喫緊の課題であり、早急な支援制度の構築を図るべきと考えるが所見を伺う。

### 持続可能な解決策を検討したい

**答** 健康福祉部長 企業立地に係る用地取得費などの初期投資経費に係る優遇措置に準じた医業の新規開業における優遇措置は、本市独自の制度としては現在のところは考えていない。本市としては、高齢開業医などの後継者不足という課題に対し、地域の実情に即した現実的で持続可能な解決策を検討していきたい。

## 着地型観光と観光客の受入 環境の整備は

市村 浩一 議員  
いちむら こういち



### 着地型観光商品策定の必要性は

**問** 着地型観光を成立させるためには、着地先である本市ならではの旅行プランやプロگرامを企画して情報発信し、誘客する着地型観光商品の策定が必要と考える。旅行に行き、その地域を楽しむにはどのような観光サービスがあれば安心して楽しめるのか。それがあれば、また行きたいと考えるのではないかと。本市を楽しんでもらうための着地型観光商品策定の必要性について考えを伺う。

### 着地型商品造成の仕組みづくりを進める

**答** 地域創生部長 観光客が個人旅行に移行しており、着地型観光の必要性を認識している。現在、体験メニュー造成には取り組んでいるものの、誘客にはつながっていない。今後は地域を自慢できる着地型観光商品の造成と磨き上げを行う仕組みづくりを関係団体に働きかけて一緒に進めていきたいと考えている。

## 第四中学校区義務教育学校の 整備は

齋藤 直 議員  
さいとう なおし



### 登下校時の安全確保の考えは

**問** 十坂小学校周辺は道路幅も狭く、特に雨天時や冬期間は保護者の送迎などでも朝の通勤時間帯は混み合う状況である。徒歩通学、自転車通学を考えると大変混み合うのではないかと危惧される。児童生徒の安全を最優先に考えて道路の拡幅は早急に検討すべきと考えるが所見を伺う。

### ソフト対策も組み合わせ安全確保したい

**答** 教育長 義務教育学校開設に伴い、十坂小学校周辺に児童生徒が集中し、通学路の安全確保が課題であると認識している。現在、教育委員会と建設部で検討を進めており、道路拡幅などに加え、通学路やスクールバスルートの選定などのソフト対策も組み合わせながら、通学路の安全確保に努めたい。



通学路の安全確保が最優先

## 他の 質問

義務教育学校の戦略と方向性、平田地域から余目地域へのデマンドタクシー運行



▲動画はこちらから

## 他の 質問

表題以外の質問はありません



▲動画はこちらから

## 他の 質問

表題以外の質問はありません



▲動画はこちらから

## 10月10日 SVリーグ女子開幕 がんばれアランマーレ山形



令和7年10月10日にバレーボールの国内最高峰SVリーグ女子が開幕することから、「酒田市議会アランマーレ山形女子バレーボールチーム応援議会」を開催しました。

アランマーレ山形のSVリーグ女子での活躍を期待するとともに、今後もチーム生誕の地として市を挙げて応援していくために、議員および執行部全員が応援ユニフォームを着用して本会議を行いました。(9月12日)



9月定例議会の傍聴者数  
個人17名、団体1(15名) 計32名

## 令和7年12月定例議会のお知らせ

- 議会期間 ..... 12月9日～22日
- 代表質疑 ..... 12月11日
- 常任委員会 ..... 12月12日
- 予算特別委員会 ..... 12月15日
- 一般質問 ..... 12月18日～22日

※日程は、12月3日開催予定の議会運営委員会で決定します。

12月定例議会 請願締切 12月2日(予定)

## 表紙写真説明



### 「冬を迎える鳥海湖」

撮影場所は、長坂道の御浜付近です。この年の初冠雪は10月8日(平年より2日早い)でした。その後、御浜付近にも雪が積りましたが鳥海湖の縁に少し残るくらいまでとけました。青空が鳥海湖に映って深い青が観られました。周りは草紅葉。いよいよ山は冬を迎えます。

高谷 勝巳氏 撮影

## 編集後記

パワハラ、セクハラ、学歴詐称、そして不倫など、人と人との関わりの中で様々な問題が報じられておりますが、公人たる首長の行為となると、その違法性は次元の違う問題であり、その資格は即刻失われるべきと言わざるを得ません。当然、二代表制における議員も同様であります。

この度の本市議会議員の不祥事は、まさに驚天動地の出来事でした。互いに切磋琢磨していくことの中で、あるべき議員像の確立ができていなかったことに改めて思いを深め、このようなことが二度と起きないようにしていかなければなりません。肝に銘じて。

(伊藤欣哉)

## 議会報編集委員会

|      |       |    |       |       |      |
|------|-------|----|-------|-------|------|
| 委員長  | 大壁 洋平 | 委員 | 遠田 敏子 | 後藤 啓  | 斎藤 周 |
| 副委員長 | 伊藤 欣哉 |    | 武田 恵子 | 富樫 幸宏 |      |

※市議会だよりに対するご意見・ご質問などがありましたら、お気軽にお寄せください。